

福岡インターハイで本校陸上競技部3年の鳥谷部陽向が男子100mで6位に入賞しました！おめでとうございます！男子4×100mリレーは惜しくも準決勝敗退に終わりました。大変お疲れ様でした！

全国高校総体 北部九州 第3日

全国高校総体体育大会（インターハイ）は第3日の29日、福岡と大分、長崎の3県で計6競技を行った。県勢は、陸上男子100mで鳥谷部陽向（三沢）が6位入賞を果たした。男子400mリレーでは弘前美と三沢が準決勝で敗れ、8強には届かなかった。自転車競技個人ロードレースは女子で28日のトラック2種目を制した室谷楓音（かのん）青森商が10位、同じく女子の柳沢蒼華（青森山田）、男子の田中壮一郎（八戸工）は途中棄権となった。第4日の30日は6競技を行う。（本紙取材班）

鳥谷部

（三沢）

6位

陸上男子100m

大舞台で悔しさを晴らした。陸上男子100m決勝で10秒62をマークした鳥谷部（三沢）は、準決勝で敗れた昨年に続き、度目の同種目出場で堂々の6位入賞。決勝で走れたことが大きな収穫。めっちゃ楽しかった」とほかに

予選3組を1位通過で臨んだ準決勝は、向かい風ながら自己ベストの10秒51を上回る10秒46をマーク。3組2位で決勝へ進んだ。

今年の雪辱晴らす

県高校記録（10秒36）より選手とはわずか0・01秒差だ1秒でも速く走ると挑んだ。大会後は度重なるけがに苦しんだほか、今中には新型コロナウイルスに感染。悔しくて涙の選手が、しや、コンディション不良といったが、差は徐々に開き

「中盤から足が（体の）後ろで回転するようになった。決勝に連れてきてくれてありがとう」と細谷監督。31日に200mにも出場する鳥谷部は「自己ベスト更新を目指し、楽しんで走りたい」と次を見据えた。（棟方好華）



【陸上男子100m決勝】10秒62で6位入賞を果たした鳥谷部（三沢）＝博多の森陸上競技場

東奥日報 令和6年7月30日掲載

全国高校総体 北部九州 第3日

全国高校総体体育大会（インターハイ）は第3日の29日、福岡と大分、長崎の3県で計6競技を行った。県勢は、陸上男子100mで鳥谷部陽向（三沢）が6位入賞を果たした。男子400mリレーでは弘前美と三沢が準決勝で敗れ、8強には届かなかった。自転車競技個人ロードレースは女子で28日のトラック2種目を制した室谷楓音（かのん）青森商が10位、同じく女子の柳沢蒼華（青森山田）、男子の田中壮一郎（八戸工）は途中棄権となった。第4日の30日は6競技を行う。（本紙取材班）

鳥谷部

（三沢）

6位

陸上男子100m

県高校記録（10秒36）より選手とはわずか0・01秒差だ1秒でも速く走ると挑んだ。大会後は度重なるけがに苦しんだほか、今中には新型コロナウイルスに感染。悔しくて涙の選手が、しや、コンディション不良といったが、差は徐々に開き

「中盤から足が（体の）後ろで回転するようになった。決勝に連れてきてくれてありがとう」と細谷監督。31日に200mにも出場する鳥谷部は「自己ベスト更新を目指し、楽しんで走りたい」と次を見据えた。（棟方好華）



【陸上男子400mリレー準決勝】40秒86で1組8位となった三沢。3走小山からバトンを受け取り走り出すアンカー西野

三沢と弘実準決勝敗退

○：男子400mリレー準決勝に臨んだ三沢と弘実だったが、2校とも決勝進出とはならなかった。同種目初出場の三沢は40秒86で1組8位。3走小山は「インターハイに来ることができてよかった。達成感がある。1年ながらアンカーを務めた西野は「憧れの舞台でのリレーにわくわくした。やりきった」と充実した表情を見せた。昨年は予選敗退だった弘前美は40秒62で3組7位。2年のアンカー葛原は「先輩たちに賞状を持たせたかった。この悔しさを忘れず、来年は決勝に行く」と意気込んだ。

佐賀国スポにおいて、本校陸上競技部3年の鳥谷部陽向が少年A男子100mと男子4×100mリレーに青森県代表として出場しました。少年A男子100mでは福岡インターハイに続き、見事決勝に進出しましたが、決勝では惜しくも不正スタートで失格という残念な結果となりました。男子4×100mリレーは準決勝で敗退という結果でしたが、両種目の青森県代表選手として、大変お疲れ様でした。



国民スポーツ大会「SAGA2024」は11日、佐賀県などで7競技を行った。青森県勢は、ボウリング成年男子団体(2人制)で、成田雄一郎(青森保健生活協同組合あおもり協立病院)・工藤純一郎(八戸市在住、ケーブル)が3位に輝いた。陸上は、少年男子B走り幅跳びで伊藤楓海(大湊高)

が8位入賞、少年男子A100mで鳥谷部陽向(三沢高)が決勝に進出した。成年の軟式野球は選抜チーム「オール青森」が1回戦で惜しくも敗れた。12日は佐賀県などで12競技を行う。

(桑田友人、丹代裕太)
=記録は3位までと青森県関係分

〇：陸上少年男子A100mは、鳥谷部陽向(三沢高)が準決勝を2位で通過し、決勝進出を決めた。鳥谷部は「自分らしい走りを見せることができた」と爽やかな笑顔を浮かべた。

7月の全国高校総体(インターハイ)では6位に入賞。さらに上を目指したいという野心を胸に、国スポの大舞台に立った。

「スタートで他の選手に遅れを取ることが多い」と鳥谷部。8月最終週からは大会への出場がなく、足腰に不調を感じることがもあったが、来たるべき本番



【陸上少年男子A100m】決勝進出を決めた鳥谷部陽向(三沢高)＝佐賀県SAGAサンライズパーク陸上競技場

陸上

鳥谷部(三沢高)決勝進出

少年A男子100m

インハイ超え決意

に備えてスタートダッシュを猛練習。リアクションタイムの短縮に力を注いできた。

迎えた本番。予選は好調なスタートを切ったが、約1カ月半のプランクが影響したのか、50mを過ぎた地点でフォームが崩れ、失速する危うい場面もあった。それでも準決勝では試合感覚を取り戻し、最後までペースを落とすことなく快走。無事決勝への切符を手にした。

12日の決勝を見据え、「目指すはメダル獲得。絶対にインターハイを超えてみせる」と決意を新たにしました。

- ▽やり投げ決勝 ①小椋健司(栃木・エイシエックスポーツ)
- 79.67②鈴木山梨・九州共立大
- 77.86③船山(愛媛・愛媛県立競技力向上対策本部) 77.67④坂田陽(九州共立大) 69.37
- 【少年男子A】
- ▽100m決勝
- ①鳥谷部陽向(三沢高) 10秒64
- ②準決勝進出
- ▽同種決勝
- 【3組】②鳥谷部陽向(三沢高) 10秒30
- ③油い風登(田伏) 予選・市船橋高 7秒72
- ④伊藤楓海(大湊高) 6秒88
- 【少年男子B】
- ▽100m予選
- ①6組 寺嶋大夢(弘前実業) 川友場
- ▽走り幅跳び決勝 ①長谷部光輝(岐阜・R.V.B.R.) 7.71
- ②元山(福井・福井高) 7.13
- ③油い風登(田伏) 予選・市船橋高 7.12
- ④伊藤楓海(大湊高) 6.88
- 【少年男子共通】
- ▽800m予選
- ①4組 ④常盤聖多(八戸学院光星高) 入替の予選
- 【成・少年男子共通】
- ▽400mリレー予選
- ①魚(①青森(松合) 大上 鳥谷辰 寺嶋) 39秒86
- ②準決勝進出
- 【成年女子】
- ▽3000m予選
- ③組 ③熊谷遥未(ASUNARO) 39秒93
- ④予選
- ▽標高跳び決勝 ①村田蒼空